



8月の主な行事

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1日 : 水の日 | 15日 : 月遅れ盆・終戦記念日 |
| 6日 : 広島平和記念日 | 23日 : 処暑 |
| 7日 : 花の日・鼻の日・立秋 | 25日 : 即席ラーメンの日 |
| 9日 : 長崎原爆の日 | 31日 : 野菜の日 |



今月のかから版 : 1 「夏の風物詩 花火」

◆花火の歴史

1543年、種子島に火縄銃とともに火薬が伝来し、その後江戸時代に観賞用の花火が登場したとされています。1589年に伊達政宗が鑑賞したとか、1613年にイギリス国王の使者が徳川家康に持参の花火を見せたという記録があります。家康の故郷でもある三河地方では、今も花火作りが盛んです。

1732年に全国的な飢饉(享保の大飢饉)とコレラが流行し多数の死者が出たため、1733年の川開きで慰霊と悪疫退散を祈願する水神祭が催され、花火が披露されました。これが「両国川開き花火」(隅田川花火大会の原型)の始まり、つまり花火大会のルーツとされています。

江戸時代、急速に発展していった花火は、将軍家をはじめ諸大名の間で流行し、江戸の大川(大川=現在の隅田川)の上流・下流での年中行事となり、花火師や花火売りが登場しましたが、花火が原因の火災が多発したため「花火禁止令」が出され、花火を行う場所は大川端(隅田川の下流右岸一帯の称)のみ許可されることになりました。

◆花火の種類

打ち上げ花火は大きく分けると、「割物」「型物」「ポカ物」となります。

「割物」は、一番ポピュラーな丸いタイプの花火で、尾を引くものが「菊」、尾を引かず点がパツと広がるものは「牡丹」と呼ばれます。よく「しだれ柳」と呼ばれる金色の花火は「半割物」で、正しくは「錦冠菊(にしきかむろぎく)」という名前です。

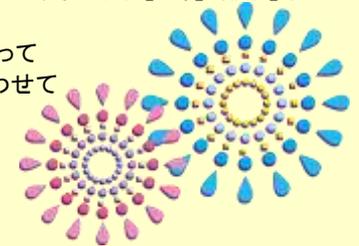
「型物」は割物のアレンジバージョンで、「土星」「ハート」「蝶」など、変形タイプの花火です。

「ポカ物」は、空中で不規則に飛び散るタイプの花火です。「小花」「蜂」「椰子」などがあります。

仕掛花火は一端の導線に火をつけると、全体に移って文字や形などを描いたり、幾つもの花火を組み合わせて一斉に点火するものなどがあります。

「ナイアガラの滝」が有名です。

花火の種類を知っておくと、花火見物が奥深いものになるかもしれませんね。



今月のかから版 : 2 「ハチドリのはとしずく」

～環境問題や社会で起きているさまざまな問題に対して、いま、私にできることは？～

地球温暖化や酸性雨、砂漠化、サンゴ礁の白化、放射能汚染といった環境問題。身近に起こるいじめや虐待、差別、失業、自死。ますます深刻になる戦争、紛争、飢餓、貧困。今日の環境や社会の問題はあまりに難しく、複雑で、その解決には無力さを感じてしまいます。

「なんとかしないとイケない」と思っても、問題の解決には、国の法律・制度の変更や国際間の調整が必要だったりするため、「自分ひとりが行動しても何も変えられない」あるいは「自分の責任ではないし、誰か地位の高い人が行動してくれるだろう」などと、無意識のうちに言い訳が先行してしまいがちです。

「ハチドリのはとしずく」という話をご存じでしょうか。

南米のアンデス地方に伝わる短い話で、明治学院大学の辻信一教授が日本に紹介し、2005年に「ハチドリのはとしずく～いま、私にできること～」という単行本として出

ハチドリは10センチ程度の小さな鳥ですが、こんな話です。

森が燃えていました。

森の生きものたちは われ先にと逃げていきました。

でも、クリキンディという名のハチドリだけは、いったりきたり

口ばしで水のはとしずくを一滴ずつ運んでは火の上に落していきます。

動物たちがそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ」と言って笑います。

クリキンディはこう答えました。

「私は、私にできることをしているだけ」

自分が住む森の火を消すために、小さなハチドリが黙々とはとしずくの水を運ぶ姿を見て、協力者が現れ、活動の輪が広がって、大きなうねりが起きるかもしれません。

この短い話は、無力を感じて誰も行動を起こさなければ、けっして事態は変わらないこと、まずは自分一人でも、できることから行動することが大事だということを教えてくれます。